

北部地区(児玉・大里)人権教育実践報告会

平成27年7月28日(火) 会場：熊谷市立江南総合文化会館 他



1 全体会の概要

- (1) 開会の言葉 副実行委員長
 (2) 挨拶 県教育局北部教育事務所長
 実行委員長
 熊谷市教育委員会教育長

(3) 人権作文の発表、感謝状・記念品の贈呈

- ・「人の気持ちを考えよう」 熊谷市立籠原小学校 第2学年
- ・「ペルテス病になってわかったこと」 上里町立上里東小学校 第4学年
(※急遽欠席の為、所員代読)
- ・「その一言に込めた気持ち」 寄居町立男衾小学校 第6学年
- ・「私の心の友」 本庄市立本庄東中学校 第1学年
- ・「自分らしく」 深谷市立明戸中学校 第2学年
- ・「友達の大切さ」 県立児玉白楊高等学校 第3学年

(4) 閉会の言葉 副実行委員長

2 分科会の概要

分科会名	実践報告
女性 (男女平等)	○様々な施設に出向いて交流し、調査活動をとおして実現したいことをまとめ、男女共同参画社会の実現を目指した女性の会の実践 ○人権感覚育成プログラムを授業で活用し、人権感覚を身に付け、様々な人権課題を解決しようとする生徒の育成を目指した中学校の実践
子供	○道徳教育や人権旬間を充実し、子供一人一人に寄り添い、自助の力を高め、互助の仕方を学ばせ、たくましく生きる力を育てる中学校の実践 ○学校・家庭・地域が一体となり、自分の大切さと共に、他の人の大切さを認めることのできる子供の育成を目指した小学校の実践
高齢者	○地域包括支援センターや認知症カフェ、認知症サポーター養成講座など、施設や地域で認知症高齢者とその家族を支援する市役所の実践 ○高齢者の方々との交流をとおして、子供たちに豊かな心を育む教育活動の推進をしている小学校の実践
障害のある人	○人権作文や特別支援学校(支援籍)交流の取組をとおして、人権についての正しい理解を深め、人権問題の解決を目指す小学校の実践 ○障害者支援施設との交流活動をとおして、人権感覚を身に付け、様々な人権課題を解決しようとする生徒の育成を目指した中学校の実践
同和問題	○言語活動を充実させ、人権感覚を醸成しながら「差別に気付ける子」「差別に立ち向かえる子」等の育成に取り組む小学校の実践 ○差別や偏見が社会で温存される構造を乗り越える方策を学ぶことをとおして、人権問題を解決できる人材の育成を目指した高等学校の実践
外国人	○外国籍児童を学校や地域で支援し、受け入れ、日本語指導や国際理解教育に取り組んでいる小学校の実践 ○生徒が主体的に学び合う活動や英語弁論大会を生かした国際理解教育等の取組をとおして、外国人に対する差別意識をなくす中学校の実践
インターネットによる人権侵害	○ありがたいの手紙やタブレットパソコンを活用し、多様化するインターネット利用を正しい判断で行える児童の育成を目指す小学校の実践 ○インターネットを情報機器の「有効活用」という観点から活用し、実体験等の取組をとおして人権課題に取り組む高等学校定時制の実践

3 参加者の意見など

- (1) 子供たちが日々の生活の中で、大人の行動を含め、よく見ていると実感した。作文を聞きながら、まずは人権を考えた「小さな行動」が大切であることを再認識した。
- (2) 当たり前のことがしっかりとでき、学校・地域・家庭と連携していくことが、これからの子供の教育にとって必要不可欠なことだと思った。